

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年12月22日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3970101352		
法人名	社会福祉法人 秦ダイヤライフ福祉会		
事業所名	グループホーム あざみの家		
所在地	高知県高知市薊野北町2丁目25番8号		
自己評価作成日	平成22年8月5日	評価結果 市町村受理日	平成23年2月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ホームは小高い丘の広い敷地に特別養護老人ホームあざみの里、小規模多機能ホームあざみの荘と併設しており、法人全体の行事や毎月のボランティアによる舞踊や歌謡などが催しを通じて利用者同士や地域住民、ボランティアの方々とも交流している。開設して7年が経過し、利用者の介護度が高くなる傾向にある中、利用者一人ひとりの「できること」「できないこと」「わかること」「わからないこと」を見極め、その力を活かしてその方らしい暮らしを見守り、支え、利用者主体のケアに徹している。今後も、利用者を中心に家族と職員が大きな円を描くように一緒に関わっていく関係を築いていく。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.pippikochi.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3970101352&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成22年9月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>敷地内には、同一法人の特別養護老人ホーム、小規模多機能型居宅介護事業所があり、施設の地域交流ホールを開放し、利用者同士の交流はもとより地域の芸能ボランティア活動や、いきいき百歳体操などが催され、利用者も各行事を楽しみに参加し、親睦を深めている。職員は、常に理念を念頭に置き、その人らしい暮らしができるように利用者主体のケアに取り組み、利用者の表情も穏やかで明るい。職員はホーム長を中心に良くまとまっており、相互の風通しも良く、信頼関係も築かれ、活気がある。また、市内北部地区のグループホーム連絡会が立ち上がり、3カ月毎に意見交換や交流が行われるなど、今後の成長、発展が期待される。</p>

自己評価および外部評価結果〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

ユニット名:(1・2 階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	代表者のコンセプトである「風通しのいい家(共に生き、共に育み、手を取り合う)」を基本に、「ゆっくりゆったりと」「笑いのたえない憩いの場」「ぬくもりのふれあい」を柱とする事業所の理念を作成し、日頃の関わりの中で利用者本位を大切にすることを繰り返し職員に投げかけ、実践につなげている。	利用者本位の暮らしを支える地域密着型の独自の理念があり、職員は理念を念頭に利用者の理解に努め、日々の関わりを大切にしながらかサービスの提供に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日課としている散歩の際に、地域住民と挨拶を交わしたり、毎月訪問してくれる芸能ボランティアの方々とも交流している。また、地域交流ホールのいきいき百歳体操の参加者や、併設事業所等の利用者とも行事を通じて交流している。	地区会には法人全体で加入し、小学校の運動会や地域の夏祭りに参加している。法人の地域交流ホールでのいきいき百歳体操やパワーリハビリテーション、芸能ボランティアの行事には地域住民の参加もあり、利用者も一緒に楽しみ相互交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	在宅からの申し込みや相談の問い合わせがあった時には、認知症への理解と関わりについても説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回開催し、その中で毎回テーマを決めて講師を招聘している。また、事業所から利用者の状況や職員異動など報告し、参加委員から意見をもらいサービスに活かしている。	事業所の運営状況や評価結果について報告し、参加メンバーから質問や意見が出され、双方向的な会議となっている。また、防災対策や栄養管理など毎回講師を招き、委員も一緒に説明を受け意見交換するなど、運営につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターとは運営推進会議を通じて関係を築いている。担当課にも必要に応じて相談したりしている。	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加があり、事業所の実情を理解してもらったり、ケアに関して相談するなど、日頃から協力関係を築いている。また、行政担当課にも必要に応じて相談をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについて、OJT研修で取り上げたり、職員全員で理解を深め実践している。	身体拘束に関する研修を法人全体で行い、職員の理解を深めながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中は玄関には施錠せず、職員は利用者をさりげなく見守り、自由な暮らしを支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する話を毎回全体会で取り上げ、「してはいけないこと」「見て見ないふりをしないこと」など、職員全員に徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を活用している事例もあり、必要に応じて活用について声かけもしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や契約更新の際には、家族に十分理解してもらえるよう説明している。また、解約に当たっては、次のサービスの利用を紹介するなど、不安のないように関わっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の面会や家族会の中で、不満、苦情などを聞いている。また、意見箱の設置もしている。出された意見等についてはできるだけ早く解決できるように対処し、説明もしている。	家族会は年5～6回開催している。また、日頃の面会などの機会を捉えて、意見や要望などを出しやすい関係づくりを心がけている。出された意見等には職員で話し合い対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットのホーム会や事業所の全体会、管理者会、法人職員会で、職員の意見を出し合えるようにしており、意見等は共有しながら運営に反映させている。	管理者は日頃から職員とコミュニケーションを図り、職員会やホーム会においても職員から意見を聞く機会を設けている。出された意見は検討し、できることから運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	普段からの声かけや、人事考課を通して職員の勤務状況を把握するとともに、面接により、普段思っていることや悩んでいることなど聞きながら、注意したり励まししながらモチベーションを高め、前向きに仕事する方向へ導いている。また、介護職員処遇改善交付金による処遇改善手当等の支給など配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の全体研修や事業所での勉強会を実施している。また、伝達講習で研修内容を共有している。管理者会でも、基盤となる職員育成について話し合っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県全体のグループホーム連絡会を通して情報交換を行うとともに、市内北部のグループホーム連絡会を立ちあげ、3カ月毎に何でも話し合える機会を作っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者を中心に何気なく会話をする中で生活歴などの情報を得ている。困っていること、不安なこと、して欲しいことなど把握し、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前や入居後を通して、ご家族の悩みや要望等を把握するように努め、信頼関係づくりに取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族の現状と要望を聞き、事業所のサービス内容やこれからの対応について説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者の状態を把握し、共感することで共に暮らす者同士の関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「できること」「できないこと」「わからなくなったこと」や「嬉しかったこと」など利用者の現状等を家族と共有し、共に支え合っていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に協力してもらいながら、親戚や友達などの面会があるなど、関係維持に努めている。	家族の協力を得て近隣の量販店や自宅の畑に野菜を採りに行ったり、親戚や知人の面会があるなど、可能な限り関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係は、良い雰囲気の時と、ちょっとした事で行き違いがある。また、一言が他の入居者を巻き込むこともあり、職員は気に留めながら、その場の雰囲気づくりや関係を取り持つよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの終了後も、ご本人やご家族に声かけしたり、様子を伺うなどしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話や、表情から思いを確認している。また、家族から情報を得て、その人の思いを推測して対応している。	日々の関わりの中で、利用者の言葉や表情などから思いや意向を把握し、家族から情報を得るなどして、思いに沿うように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の面会時に日頃の様子のお話をしながら、若い頃の話と現実の行動と結びつけ、職員間で共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の状況が異なるので情報の共有が大事であり、利用者一人ひとりの観察を行い現状を把握するとともに、夜勤職員から日勤・早出職員へ、日勤職員から遅出職員や夜勤職員へと、入居者や全体の申し送りをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3カ月に1回プランの見直しをしている。日頃の生活や変化について申し送り、職員全員で共有しながら話し合い、計画作成者がプラン作成している。	利用者や家族の意向を踏まえて、日々のカンファレンスやホーム会で話し合い、介護計画を作成している。3カ月毎の見直しを基本とし、状況の変化など必要に応じて随時見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プランに基づく支援内容や、普段と異なることや意外な言葉や行動、自分からやろうとしたことなど、細かく記録している。また、記録を職員間で共有し、実践や評価、プランの見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族のその時の状況によって話し合い、柔軟な支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者にとって一番の支えは家族であり、できるだけ家族に「来る」「話す」「見る」「聞く」ことに関わってもらい、家族と一緒に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に沿って受診している。受診は家族対応としているが、普段の様子や情報提供ため、職員が同行することもある。緊急時は搬送や協力医に受診している。	利用者や家族の希望するかかりつけ医に受診できるようにし、通院介助は家族の対応としているが、家族の都合によっては職員が対応している。受診結果については、家族から連絡をもらい共有している。また、定期的に協力医療機関の往診を受けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週月曜日に訪問看護があり、入居者の状態の変化によっては随時連絡し、指示を受けたり、訪問してもらい、健康チェックをしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院に出向き、家族や看護師と連絡を取りながら、本人の状態の把握に努めている。本人の気持ちが下向きにならないように声をかけている。病院とは、情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人、事業所で指針やマニュアルなどを作成している。家族会や個別に家族に説明している。看取りの事例は家族の協力も得て2事例ある。	看取りに関する指針をもとに、利用者、家族に説明している。これまで看取り事例があり、利用者の状態と家族の意向を十分に聞きながら話し合い、チームで支援に取り組む体制ができている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護や往診の際に、様々な事故発生時等の対応の仕方について情報をもらっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体で実施している年2回の避難訓練に加え、事業所でも夜間想定、地震対策、消火訓練など、独自の取り組みをしている。	避難訓練は、消防署の協力を得て法人全体で年2回実施しているが、地域住民の参加協力が少ない。今後は、事業所独自の訓練も計画中である。	災害時には地域住民の協力が不可欠であり、運営推進会議などで意見をもらいながら住民参加について地域へ働きかけていくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報共有の中で、言葉に出してはいけないことに気をつけるとともに、日々のケアの中で、利用者の尊厳を保つことを最も大事にして取り組んでいる。	トイレ誘導や入浴など日々の声かけについても職員同士がお互いに気をつけ合い、利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう取り組んでいる。また、個人情報の保護についても、法人全体で研修し職員会やホーム会で周知徹底している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「わかること」「わからないこと」「できること」「できないこと」を見極めながら、できるだけ本人が決定できるように個々に応じた関わりをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	年齢や性格も違い好みも違うの中で、本人の状態を見極めながら、気持ちを汲み取り、その人のペースを大事にしながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の生活の中で整髪や整容など、入居者が自分で気づいてできるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の能力に応じて下準備からできることに関わってもらい、昔取った杵柄を発揮してもらう場をつくっている。	利用者の希望を聞き献立し、調理から片付けまで能力に応じて個別に声かけしながら職員と一緒にいる。利用者と職員は家庭的な雰囲気の中で楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べること、飲むことなどを生活のパロメーターとして摂取量をチェックし、不足している場合は個々に随時補給をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に口腔ケアの声をかけている。声かけや誘導等に工夫し、口腔内の状態も見ながら支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄ができるように時間誘導や声をかけている。また、個々の排泄パターンを把握し、本人の気持ちを向けるよう工夫しながら支援している。	排泄パターンを把握し、できるだけトイレで排泄するよう時間をみて誘導している。さりげない声かけ支援により、失禁回数もが少なくなっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の牛乳や水、お茶、好きな飲み物、また、毎食毎の寒天ゼリー、随時のお茶、白湯、コーヒー、ジュースなどで水分補給を行い、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々に応じて入浴の声かけをしている。また、拒否があった場合は、無理強いすることなく、時間を遅らせたりや職員が替わって対応している。	毎日でも入浴できるようにしているが、利用者の希望に沿って概ね2～3日毎に入浴している。入浴拒否がある時は声かけを工夫するなどして対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況に応じて昼寝を勧めており、身体を休めることで表情も体調もよく落ち着いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々にどういう薬を服用しているか処方箋を確認しながら薬のセットをしている。受診後、処方に変更がないか確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	普段の何気ない話の中で、利用者の今までの暮らしの輝きの部分に触れることを通して、笑顔や喜び、張り合いに結びつけ、安心して暮らしてもらうよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々に応じて散歩にでかけたり、外気浴をしている。また、季節に応じた花見や行楽にもでかけている。	利用者毎に、その日の希望に沿って散歩や近隣の量販店に買物に出かけている。また、季節毎に花見やみかん狩りなど家族の協力を得ながら行楽を楽しみにして出かけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物の際には自分で支払うよう、声かけしたり見守りながら支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者から電話の希望があれば、電話をして話ができるようにしている。また、友人や親戚の方から手紙がくると嬉しそうにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所は明るく、においや包丁の音で食をそそるよう配慮したり、安心して歩けるフロア、ゆっくりゆったりとした湯船など、住宅と変わらない環境づくりに気を配っている。	季節の花を活け、明るく、ゆったりくつろげる空間となっており、自宅とのギャップを感じさせないよう居心地よく過ごせる工夫をしている。トイレ、浴室も掃除が行き届き清潔感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分から好んで場所を選び、そこで気の合う入居者同士と一緒に話をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に協力をしてもらいながら、本人が使っていた物や安心できて、落ち着くものを持ってきてもらい環境づくりに心がけている。	馴染みの家具や衣類、写真、ぬいぐるみを持ち込み、居心地よく落ち着いて過ごせるよう、個性のある居室づくりに工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム会で、利用者の「わかること」「わからないこと」「できること」「できないこと」を見極め、職員の関わり方について話し合っている。「かかわり方一つ、声かけ一つ」を繰り返し取り組んでいる。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				